

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年12月12日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300948
法人名	有限会社 辛卯
事業所名	グループホーム 和みの家
所在地	鹿児島県鹿屋市西大手町8190番地1 (電話) 0994-40-7855
自己評価作成日	平成25年8月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年10月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①関連施設として、協力病院があるので、24時間の医療体制ができる状態である。②関連施設として、特養があり、催し物への参加や災害時の避難場所としての機能も果たしている。③環境も落ち着いた商店街にある。立地条件を活かし、散歩や買い物、夏祭りや秋祭りなどの行事への参加をする等、近隣の方々との触れ合いの機会を多く作り、地域社会との繋がりを持ち続ける生活ができるように努めている。職員は積極的に研修に参加してより良いケアを目指して意見交換も活発に行われ、明るい働きやすい職場となっている。委員会を設置して、職員全員が各委員会に所属する事で、職員1人1人が運営に関わる体制ができている。④家族との関わりにおいても、毎月写真や文章で利用者の様子をお知らせして、家族からの信頼を得るようにしている。⑤運営推進会議においては、市の担当者、町内会長をはじめとして民生委員、商店主、派出所警察官などの出席があり、地域の協力を得るようにしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○市街地に近接した商店街の一角に位置しているが、比較的静かでゆったりと落ち着いた雰囲気のあるホームである。近隣には協力医療機関や関連の特別養護老人ホームなどの事業所もあり、各種の行事や緊急時の対応などで連携・協力できる体制が整った環境で、利用者やご家族の安心につながっている。  
○地域との交流が活発であり、町内会に加入して地域の清掃活動や行事などに積極的に参加するとともに、日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人々と挨拶や話を交わしている。また、中学生の職場体験学習やボランティアの受入れなど、地域との協働関係の構築に積極的に取り組んでいる。  
○介護計画は利用者本人や家族からの意向や希望を十分に聞き取り、主治医や職員を始めとする関係者からの意見も取り入れながらわかりやすいものを作成している。設定したケアに関する目標を、毎日利用者ごと詳細に項目設定された実施状況表で丁寧に確認、記録し、それを基に計画の見直しを適切に行っている。  
○災害対策については職員の意識が非常に高く、消防署や地域住民の参加も得た避難訓練や消火訓練が年2回以上実施されると共に、自主訓練や救命講習等も毎月のように行われており利用者の安全確保に熱心に取り組んでいる。  
○管理者はホームでの暮らしを楽しんで頂くために、利用者の食事への楽しみをより充実したものにするために大きな関心を寄せている。利用者の好みの把握や食材選びには職員も一緒に注意を払い、季節に合った食事の提供やおやつ作りなどにも日々工夫を重ねている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム開設時に理念を作成して、基本理念にサービス理念を付けている。理念を毎朝唱和して、理念が実践できるようにしている。	開設時に作成した理念に沿って、ケアに関する月次の目標も掲げて、利用者個々の人格を尊重して地域の中でその人らしく楽しく暮らせるように日々のケアに取り組んでいる。理念は掲示するとともに、毎朝唱和して理念の意義を振り返りながら理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入して、運営推進会議や火災訓練に町内会会長氏や民生委員の出席を依頼して、町内会総会に出席したりしている。	町内会に加入して総会や奉仕作業・夏祭り・地区の月見会などに参加するとともに、日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人々と挨拶や話を交わしている。また、中学生の職場体験学習やボランティアの受入れ、関連施設との交流など、積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験が毎年あり、認知症についての説明や支援の方法を伝達している。地域の人から、入所の相談を受けた時は支援の方法を話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や行事について文書にて提示し、それについて、行政職員や出席者から意見をもらい、実践の場での介護に生かしている。	運営推進会議はご家族や町内会長・民生委員・地域のグループホームの代表・行政の職員・派出所の所長など、多くの委員の参加を得て定期的に開催されている。ホームの現況報告や行事・問題点等について活発に意見交換が行われ、委員からの提案や意見が街灯の設置や避難経路の確保の検討などに具体的に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	成年後見制度について、家族間でトラブルがあった場合や管理者や計画作成担当者などの勤務状況について相談した。事故があった時は速やかに報告して指導を受けている。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、認定更新の機会等に担当者を訪問して、利用者の暮らしぶりやニーズなどを具体的に伝えて、適切に助言や関連情報の提供を頂くなどの協働関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしている利用者が1人いる。1回/月ミーティングにて現状を話し合い、経過報告を記入して、身体拘束解除の方向に向けている。玄関には施錠をせず、センサーや監視カメラを設置して、離設予防に努めている。	身体拘束廃止委員会を中心にして、身体拘束に関する勉強会を毎月行い職員の理解を深めるように努めている。居室や玄関の施錠は行わず、センサーや監視カメラの活用とともに、職員の連携による見守りや声かけを通じて利用者の安全確保と自由な暮らしの支援に日々取り組んでいる。特に言葉による拘束の防止については、毎月の職員ミーティングで繰り返し話し合い理解を深め、サービスに反映できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の時に、虐待防止についての研修を行ない、精神的、身体的虐待が起きないような体制をとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者が入所している。成年後見人が定期的に利用者に面会に来所するので、話し合いを持ち、利用者が金銭管理や衣類の不足、お菓子が食べたい等の要望を持っているので、対応策について連絡調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、文書にて説明して、解約時には納得できるような話をしている。改定時には書類を送付して説明し、同意が得られるように図り、家族会にて話し合いを持っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置して、説明文書を添付し、意見が述べやすい状態にしている。3回/年アンケートを実施して家族の意見を聴取している。苦情対策委員会を設けて、利用者や家族の苦情に対応している。	利用者の思いや意見は日頃の暮らしの中で汲みとるように努め、ご家族からの意見や要望は訪問時の対話や年3回の家族会の際に、アンケートへの協力依頼も含め、話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。意見や苦情については職員が内容を共有し、苦情対策委員会や職員ミーティング等で検討・対応し、ホームからご家族宛の毎月のお便りでも連絡している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長、管理者はミーティングやケア会議に出席して職員の意見を聞いている。	管理者は職員からの意見を、毎月の職員ミーティングやケア会議の他に、日頃より話しやすい家庭的な雰囲気作りに努めて日常業務の対話で把握して、得られた意見や提案を可能な限り業務改善やサービスの質向上に反映させている。利用者の様子やホームの取組状況は、毎月のお便りや来訪時の対話等でご家族にもお伝えしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準の向上に努め、平成24年度においては3回/年の賞与が支給された。労働時間も残業を無くし、やむおえず残業をした場合は残業手当を支給している。腰痛		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、介護福祉士受験の為に実技試験免除になる介護実技研修会に職員が出席できるように勤務体制を作成して、職員の希望に添っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会しており、協議会の総会に出席して、講演を聴いたり、他のグループホームの職員と交流している。運営推進会議には他のグループホームの職員に出席して頂き、当施設の職員もそのグループの会議に出席している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談者、居宅ケアマネ、病院スタッフなどより情報収集をして、当施設より、面会に行き、本人と会話をする事により不安や要望を聞き取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始する前から、グループホームについて説明し、家族の困っている事にどのように対応していくか、理解して頂く。それにより関係作りをしながら、入所を検討してもらうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所の紹介をしながら、介護保険の在宅サービスの説明を行ない、特養の入所申し込みについてもアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや新聞折、調理の下ごしらえとしての皮むきや豆剥きなどを行っている。テーブル拭きなどのできる事は積極的にしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を定期的に3回/年実施しており、家族の出席をお願いして、話し合いの場を設けている。面会を奨励して、家族との繋がりを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の負担にならない程度の外泊を勧めている。家族や知人の面会時も居室で落ち着けるようにしている。自宅付近へのドライブも実施している。	利用者のご家族や知人の来訪時には、ゆったりと過ごせるように配慮することをはじめ、関連施設や協力医療機関での知人との交流も支援している。また、本人が希望する馴染みの美容室や商店での買い物、一時帰宅や近隣のドライブ、時には知人のお見舞いなどにも可能な限り同行するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションをする時は、全員に声掛けをして参加を促し、座席も輪になって和やかにできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所されても、見舞いに行き、家族や本人に喜ばれている。又、死亡時は通夜やお悔やみに伺っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望が強い利用者においては、家族と電話で会話したりして気持ちが落ち着くようにしている。おやつにおいても、黒餡の饅頭が好きな利用者には好きな物を出すようにしている。	利用開始時の本人やご家族からの聞き取りや、日々の暮らしを通じて本人の意向を汲み取るように努めている。職員は内容を共有し、必要な対応についてはご家族とも十分に話し合い、本人が楽しく過ごすために最良の支援を提供できるよう工夫を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に紹介元から情報を得る事が多い、本人の拘りや希望を重視して、生活環境が大きくかわらないように気をつけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	半身麻痺の為に座位が辛い人は、車椅子では褥創が発生するので、ベッド臥床を長くしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族にケアプラン更新時にアンケートをとり、家族の希望や要望を聴取している。本人に対しては常日頃会話の中で、希望を聞きとりしている。医師からは訪問調査時に方針などを聞いている。職員からはケア会議にて意見を聞いている。	本人や家族の思いや意見を聞き、主治医や関係者・職員からの意見を十分反映させたわかりやすい介護計画を作成している。ケアの経過は細かく項目設定された実施状況表に日々記入されており、それを基にして介護計画の見直しや修正が適切に行われている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況を毎日チェックして、プランとうりのケアが実施されているか確認している。個別記録はSOPで記入され、分析や計画も記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食を実施して、利用者の気分転換を図っている。又、化粧品会社のボランティアを利用して、髭剃り、眉カット薄化粧を実施して、気持ちが華やかになるように工夫している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	街中という設置条件を活用して町内会の夏祭り、特養の夏祭りの見学を行ない、利用者の楽しみを作っている。近くの本市にも出かけている。スーパーへの買い物にも行きやすい場所にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同じ系列の病院が24時間体制で受診可能であるので、緊急時の対応ができ、家族は安心している。又、訪問診療を依頼しており、利用者の負担が少なく、医師の診察が受けられる。	利用前の受診の経過は十分把握されており、協力医療機関の訪問診療を毎月受けられることが、毎日を安心して過ごすことにつながっている。また、必要時の主治医や専門医への通院も職員が適切に支援している。受診状況や必要な対応についても職員で情報の共有が図られ、ご家族とも適切に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎朝、バイタルチェックを行ない、体調管理を実施している。介護職は状態変化を看護師に報告している。医療連携体制を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、管理者が病院に赴き医師、相談員、看護師と連絡を取り、病状把握に努め、早期の退院を進めている。病院も系列の病院への入院をできるだけ行うようにしているので、関係作りができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「健康管理と医療体制に関する対応規定」の説明を行ない、終末期には「重度化した場合の対応における指針」に、同意書をもっている。家族の希望により、入院に移行する事が多い。	重度化や終末期のケアについては、指針を基に入所時に本人やご家族に十分説明して同意を得ている。また、職員は医療知識に関する研修に積極的に参加して知識を深めるように努めている。様々な変化の際には、ご家族や協力医療機関の医師とも十分に話し合い、関係者が連携して可能な限りの支援・対応ができる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備えて「心肺蘇生法」の訓練を消防署救急隊の指導の下に実施した。平成25年9月には「応急手当のコンテスト」に参加する予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を消防署や防災会社の立会いの下で、2回/年実施している。そして、毎月マニュアル訓練を2人ペアで行っている。消防訓練の時には、町内会長の出席もある。</p>	<p>消防署、防災会社、町内会長や地域の方々の参加のもと、災害対策委員が中心になり、年2回以上は夜間も含む火災や地震等を想定した避難訓練や消火訓練を実施している。更に自主訓練や救命講習会の実施、スプリンクラーや自動通報装置等の設置、食料や飲料水等の備蓄及び関連するマニュアルや連絡網の整備もなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成している。排泄時、入浴時、更衣時は特に注意している。名前の呼び方についても利用者が不快にならないように注意している。関係機関への情報提供は契約時に同意を得ている。	関連する研修やマニュアルの充実を図り、日常のケアに際して利用者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応の防止に努めている。また、個人情報の関係機関への提供はご家族の同意を得ており、各種の記録の保管や居室の保護にも徹底した配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おしゃれをしたい利用者には、衣類の選択を本人に任せている。パジャマの着用も本人の判断である。食事においても「饅頭が好き」「コーヒーが好き」と、言う方には希望を叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食においても、一応時間は決まっているが、起きたくない時は強制はしていない。昼間でも部屋に入って休む事もできる。テレビや雑誌を見たり、他の棟に遊びに行く利用者もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	「パジャマは着たくない」「上着を着たい」「下着、スリッパ、ズボン下」まで着たい、との希望などを実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ツワの皮むき、そら豆の皮むき落花生の殻むきなどをする。ピューラーを使用して人参の皮むきも行う。自分が下ごしらえした食物が食卓に上がるのは楽しみである。献立の注文も聞いたりする。	日頃の暮らしの中で把握できた利用者の好みも献立に反映させると共に、野菜の下ごしらえや食卓の後片付け、おやつや餃子を職員と一緒に作るなど食事を楽しみながら行う雰囲気作りに努めている。また、季節の行事食や誕生会等の特別食、家族も参加した弁当持参の外出、家族会時の薄茶やお菓子の提供など、可能な工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を毎食ノートに記入しており、定期的に病院の管理栄養士により献立や食材の評価が行われている。食べる量や水分量は毎回チェックしておりトータル計算もしている。そして、医師への報告も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前、10時、15時のお茶での嗽、食後は歯磨きを使用しての義歯洗浄を行ない、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツを使用して、失禁してもズボンの汚染がないようにしている。トイレ誘導は約11回/日行ない、トイレ排泄を促している。夜間はPWCを使用して、排泄介助を行っている。	排泄チェック表の活用や利用者の様子観察、適宜の声かけ誘導で、利用者の不安や羞恥心の軽減も兼ねた、個人の状態に応じた排泄の自立に向けた支援を行っている。これらはケアプランにも反映して、排泄用品の適切な選択など、個々の利用者の状態に合わせた対応になるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は柔らかく煮た野菜中心の献立にして、食べやすくしている。運動もリハビリ体操を実施している。緩下剤が処方されていても、排便状況により服薬しない事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	3回/週の入浴を基本にしているが、失禁により汚染したり、入浴希望がある時は実施する。浴槽に入る、入らないも本人の希望を汲んでいる。	週3回の入浴が基本であるが、希望があれば可能な限り対応できるようにしている。利用者の体調管理や安全面には十分に配慮しながら、足浴や清拭・シャワー浴などの対応とともに、ゆったりと対話するなど利用者本位の入浴支援となるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファに腰掛けて休む利用者も居る。又、部屋で休む人も居り自由に休息できる。夜間は安眠できるように静かな環境を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について、説明できるように、処方箋説明書が準備してある。薬は看護師により準備されており、予薬は介護職により実施されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ラジオを聞くのが好きな利用者は居室でラジオを聞いており、役割としては、強制ではないがエプロンたたみや洗濯物たたみをされる。饅頭が好きな人はおやつに準備している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	白髪染めを希望される時は、馴染みの美容院に職員と共に出かけている。冬場になると、玄関での日光浴を実施したりして近隣の方々と会話をしている。気候がいい時は、グループホームの周囲を車椅子や独歩にて散歩している。	利用者の健康状態や天候に応じて、日光浴をしながらで地域の方々との対話を楽しんでいただいたり、車椅子も活用しながら近隣の散歩や買い物、美容室、ドライブ等に出かけている。また、地域のイベントや関連施設との交流に出かけたり、ご家族と一緒に遠足、ボランティアの協力を得ながらの外出など、可能な限り楽しく過ごせるように工夫・支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり金を管理しているが、「お金がない」と言う利用者がいるので、手元に3000円所持している。お金の置き忘れがあり、職員が探した事あり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話は摂りついており、家族との会話をしている。自ら電話をしたいと言う時は、職員が電話番号を押して電話している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンにてグループホーム内の温度や湿度は管理されている。居室内の温度管理はなされている。日が当たる時は、座席を変えたりして不快にならないようにしている。	利用者が多くの時間を過ごしているリビングは、天井が高くて明るく解放感のある空間である。居室も含めて温度や湿度の管理にも十分配慮がなされ、静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。また、季節の花も飾られ、周囲の壁には職員と利用者が作成した手作りの作品が適度に配置されている。畳の間や大きめのソファもあり、気持ちよくくつろげるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール(食堂)においては、それぞれの座席が決まっているが、固定はしていない。ソファで自由に休んでいる。自分で好きなように過ごしており、居室で過ごす人もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅の物を持ち込みできるので、家具も持ち込みされている。髭剃りやラジオなど使い慣れた物を使用している。畳を希望した場合は敷いている。ベッドを希望しない時は、取り除いている。</p>	<p>居室の温度や湿度の管理には十分に配慮をしている。利用者の希望に沿って畳敷きに変えたりソファの持ち込みなど本人が使い慣れた家具や寝具、日用品を自由に持ち込んで頂き、自分の部屋として過ごしやすい環境になるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下や脱衣室には、手摺が設置され、動きやすいようにしてある。浴槽内には、滑り止めマットが敷いてある。グループホーム内は段差はなく、動きやすいようになっている。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない